2008 年 8 月 18 日発行

FOREX WEEKLY

三井住友銀行
SMBC SUMITOMO MITSUI BANKING CORPORATION

市場営業統括部　ﾁｰﾌ･ｴｺﾉﾐｽﾄ　山下えつ子
電話　03-3282-5879

今週のポイント

ドル／円：　レンジ

	15 日 正午	次回発行まで	３ヵ月後
ドル/円	*110.13 円*	*108.50-110.50 円*	*100.00-110.00 円*

- 米小売業等の決算発表でドル売りの可能性あり。

ユーロ／円：　調整

	15 日 正午	次回発行まで	３ヵ月後
ユーロ/円	*162.82 円*	*161.50-163.00 円*	*160.00-170.00 円*
ユーロ/ドル	*1.4781ﾄﾞﾙ*	*1.4650-1.4900ﾄﾞﾙ*	*1.5000-1.5500ﾄﾞﾙ*

- ユーロ圏の経済指標は悪化一服。
- 日本の景気は弱いが、円への影響は限定的。

(ﾃﾞｰﾀ出所：Reuters)

都合により、今回は月曜日発行となっております。(8 日(金)から 15 日（金）までの情報を元に作成しています。)

FOREX WEEKLY は弊行ホームページでもご覧頂けます。
(http://www.smbc.co.jp/　マーケット情報→外国為替情報→フォレックス･ウィークリー)

本レポートは情報の提供を目的としており、何らかの行動を喚起するものではありません。ここに示した意見は本レポート作成日現在の筆者の意見を示すのみです。投資や資金運用に関する最終決定は、お客様ご自身で判断されるようお願い申し上げます。

三井住友銀行

足元のマーケット動向、及び来週の見通し

		先週のレンジ	今週の予想レンジ
ドル	ドル／円	108.35-110.67 円	108.50-110.50 円
ユーロ	ユーロ／ドル	1.4678-1.5248ﾄﾞﾙ	1.4650-1.4900ﾄﾞﾙ
	ユーロ／円	161.40-167.17円	161.50-163.00円

（先週のレンジは8日金曜日正午～15日金曜日、予想レンジは18日月曜日～22日金曜日正午）

7 日の ECB 理事会以降、ユーロ軟調地合いが続き、先週ユーロドルはあっさり 1.50 を下抜け、1.46 台半ばで越週。ユーロ円も ECB 前には 169 円台だったが、先週後半は 162 円を挟んで推移。ドルはユーロやオセアニア通貨が売られる中、米株価の動きに振らされながらも相対的に選好されて堅調地合い。

米国景気の今夏の状態は横這い。原油相場が下落し、もはやインフレ警戒⇒利上げではなかろうが利下げでもない。相場にとっては目新しい材料がない状態で、為替相場はドル主体では動きにくい。秋に向けての景気のポイントは減税効果剥落後の個人消費、企業セクターの動向。7 月の小売売上高には減税効果が依然として働いているが、除く自動車ベースの前月比は 5 月+1.2%→6 月+0.9%→7 月+0.4%と徐々に伸びを低下させている。このままスローダウンしていきそうだが、一方ではガソリン価格の低下に伴う家計センチメントの改善と購買力の回復がある。個人消費は減速するが急失速の可能性は薄そうだ。一方の企業セクターも足許では踏み止まっている感があり、原油相場の下落が奏効したのか先行きセンチメントにも改善が一部見られる。個人消費の急失速がなければ、企業セクターのもう一段の腰折れも回避できそうな雰囲気である。この場合、秋以降の米景気の様相は潜在成長率以下の低空飛行、リセッション回避、となる。今週については重要指標の発表はないが、19 日にホームデポ、ターゲット、ヒューレット・パッカード、21 日にギャップの決算発表が予定されている。個人消費が減速するとの思惑が高まると、ドルにも下落圧力がかかろう。

今週はユーロ圏では 19 日にドイツ ZEW 指数、21 日に製造業およびサービス業 PMI 速報値、が発表される。先週発表された 4-6 月期 GDP は前期比▲0.2%とマイナス成長だったが、ユーロ高是正と原油安を背景に、今週の指標は悪化一服となる可能性がある。ここまでのユーロ下落の幅とスピードが大きかっただけに、今週はユーロ調整ムードの方が強くなりそうだ。上述のように米国経済の中期ビューは低空飛行でも、今週はドル下落の可能性があるため、ユーロドルは小反発が予想される。

日本でも先週の 4-6 月期 GDP は前期比▲0.6%とマイナス成長。今週は日銀の金融政策決定会合が週初に予定されており、景気に対する判断の更なる下方修正も予想されているところだ。ただ、先週の GDP も予想通りの数字だったこともあり市場の反応はなし。為替市場においては円が日本の指標で左右されることが少ないが、更なる指標の悪化や利下げ期待の醸成がなければ、尚更、円相場が日本の景況感を反映して動くとは考え難い。日銀が利下げを匂わすこともなかろう。

最後にインフレについて付言。原油相場の大幅下落によって利上げの緊急性はいずれの国においても急速に薄れたが、物価への波及はタイムラグを伴って出てくる。PPI やコアの上昇が意外と大きいという局面がここから半年ほどは続く可能性がある。各国の利下げに対する期待が盛り上がりにくい環境だ。